


一般質問通告書

次のとおり、質問したいので通告します。

平成28年2月18日

山北町議会議長 府川 輝夫 殿

受付番号	第9号	質問議員	3番	井上 正文 
件名	神奈川県緊急財政対策に係る山北町の対応についての課題や、今後の進め方は			
要 旨				
<p>9月の一般質問では、時間配分を誤り大野山問題について議論できませんでしたので、その時の回答以外の気になっている点について再度質問します。</p> <p>平成24年9月18日県有施設原則全廃の新聞報道がされました。平成24年10月17日黒岩知事は「危機的状況にある県財政では、毎年約3000億円の借金をしていること、身を削る行政改革の実施では、44%の人員削減や出先機関を半減させたが、それでも、平成25年度と26年度の2年間で1600億円もの財源不足が生ずると見込んでいる。そこで、このたび、すべての事務、事業をゼロベースから見直す緊急財政対策をとりまとめた。」ということを発表されました。その後神奈川県は、山北町や地元に対し「大野山乳牛育成牧場」「まきば館」「丹沢湖ビジターセンター」「西丹沢自然教室」「ユーシンロッジ」の扱いについての話し合いの場を持ち始めました。</p> <p>1 これまでの話し合いについて、山北町はどのような態度で臨んできたのか、また課題についてどのように整理したか総論を問います。</p> <p>2 私は、地元の大野山乳牛育成牧場機能廃止についての意見交換会に何回も出させていただきましたが、県と町、県と地元、町と地元での話し合いが、県の一方的な話なので、意思疎通ができる相互の話し合いになっていないように感じました。その原因は、県も町もどこかで大野山を負の遺産と考えているからではないのか。「県は大野山を手放し身軽になりたい。町は、災害に弱い大野山など受け持てない。」という本音があるから、たらい回しの議論になっているのではないのか。</p>				

そうだとしたら、地元としては本当に悲しい。昭和41年（1966年）建設着手から半世紀にわたり、畜産振興に寄与した大野山乳牛育成牧場について、そう思われたくないのが人情ではないか。大野山は地域のものかもしれないが、山北町のものであり、都心から1時間で来ることができ、神奈川県民の自然を残した数少ない憩いの場所でもあります。そこで、今後の進め方について提案をします。

- ① 県と町が同じ土俵に乗り、スピード感のある議論を進めること。この場合、負の遺産についての認識を一致させ、対策についての方法論まで議論をすること。
- ② 機能廃止後、大野山の活性化策（経済効果を生むような）を県と町でつくり、できあがったら地元の説明すること。
- ③ 大野山の景色は、神奈川県が誇れる観光資源であり、また神奈川県の水源地域でもあります。よって、県が引き続き大野山の災害も観光も一翼を担い責任をもって関係性を保ちつつ、未病対策を絡める約束をすること。